

子育て世代の家計運営と生活設計

— 第5回 — 講師：池谷てる代 静岡県金融広報アドバイザー

このコーナーでは、全国で活躍している金融広報アドバイザーによる誌上公開セミナーを行います。第5回の講師は静岡県の池谷てる代さんです。池谷さんは消費生活やマネープランなどを中心とした講演活動を行っていますが、なかでも、三人のお子さんを育て上げた人生の先輩として語る、「子育て世代の家計運営と生活設計」をテーマにしたセミナーが、子育て世代の母親を中心に大きな共感を呼んでいます。



子どもに伝えたいお金の話

子育ては、経済的にも精神的にも「子どもが将来一人で生活できるようにすること」が最大の目標だと思います。子どものうちから金銭感覚を養い、お金の付き合い方を教えることはとても大切です。

一緒に買物に連れていったり、実際にお金を使わせたり、子どもには実体験をたくさんさせてあげましょう。生活習慣と同じで、金銭感覚は知識ではなく、体験によって少しずつ身につきます。「お金は使ったらなくなる」とは誰だって理屈では分かります。それでも大人になって多重債務者として苦しむ人がいるように、「一定の範囲でお金を使うこと」を身につけることは、当たり前のこととはいえ、案外難しいものなのです。

子どものときから実体験で学ばせるには、「おこづかい」の使い方を通じて教えるのがよいでしょう。上手にやりくりできるまでは、すぐに使い切ってしまったら、必要ないものを買ってしまったら、何度も失敗するはずですよ。その失敗こそお金の大切さや、やりくりの仕方、ガマンすることを教えてくれます。

「子どもがマンガしか買わない

ので、おこづかいをあげるのをやめた」というお母さんがいました。ところが、マンガしか買わないのは、「ほかに欲しいものがないから」という理由だったのです。

学校で必要な文房具も欲しいオモチャも、それまで通りに親が買いつけ、そのうえで「おこづかいをあげても、子どもにはもうすでに足りないものがあります。」「いくらあげるか」、「いつあげるか」、「何に使うか」は家庭の方針によってさまざまでしょう。それも含め、おこづかいをスタートさせる前に、親子でよく話し合っておくことが大切なのです。(図)

子育て中から子育て後のことも考えよう

子どもがまだ幼いうちは、「子育てにはお金がかかる」という情報や知識があっても、具体的なマネープランを立てている家庭は少ないかもしれません。

人生の三大資金とは「教育資金」、「住宅資金」、「老後資金」。住宅資金は購入時期を変えたり、賃貸を選ぶことができますし、老後資金は自分たちである程度コントロールすることができます。しかし教育資金は、子どもの成長が待ってられない以上、子どもが生

図:「おこづかい」で金銭感覚を育てる「おこづかいをあげるときの5つのポイント」

① 「ときどき」あげるのではなく、「月1回」
計画性を身につけるためにも、毎日から週1回へと、少しずつ慣れさせます。目標は独り立ちのときを踏まえて、月1回にしています。

② おこづかいの金額は一定
使えるお金には限度があることを教え、途中で足りなくなっても追加はしません。使い切ってしまったらガマンすることを覚えます。

③ 身近な大人(祖父母など)と連携
周囲の大人たちとよく話し合い、安易にお金を渡さないようお願いしておきましょう。親から渡すこ

とにこだわらず、「おこづかいは、おばあちゃんから」と決めてもよいでしょう。

④ おこづかいの範囲は事前に話し合う
文房具は親、ジュースやおもちゃはおこづかいなど、「必要なもの」と「欲しいもの」でおこづかいの範囲を相談して決めておきます。用途や家庭の考え方で金額には差が出ます。時期を見て話し合い、金額を見直すことも必要です。

⑤ 一度あげたおこづかいの指図はしない
親が管理すると、子どもは自分で考えることができず、子どもの自主性を大切に。

池谷 てる代 (いけや てるよ)

専業主婦から「主婦であることが活かせる資格」をめざし、消費生活アドバイザーやファイナンシャルプランナーを取得。以後、浜松市を拠点に消費生活講座などセミナー講師として活躍する。2004年より金融広報アドバイザーに。法テラス浜松の情報提供職員、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)静岡分科会会員。自らの生活経験を活かした、「生の声」を各世代に届ける活動を行っている。

【金融広報アドバイザーとは】金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

表:「あなたの未来の生活設計表」を書いてみよう

生活設計表とは、家族全員のライフプランとマネープランの一覧表です。以下の項目を自分の老後まで考え、具体的な数字を入れていきましょう。

		2015	2016	2017	～	2020	～	2060
家族の年齢	夫	35	36	37		40		80
	妻	35	36	37		40		80
	子	4	5	6		9		
	子	1	2	3		6		
	()							
	()							
ライフイベント	家族旅行			小学校入学 幼稚園入学	車買い替え			住宅購入
ライフイベントのために必要なお金	10		50	150		1500		
収入	夫350	夫350	夫360 妻100 計460					
支出	280	290	320					
上記収支差額	60	60	90					
貯蓄累計額 および借入金	380	440	530					

また「教育費は聖域」と考えなから、そのやりくりで教育資金はなんとかなるはずですよ。

また「教育費は聖域」と考えなから、そのやりくりで教育資金はなんとかなるはずですよ。

いってください。「子どもにどこまでお金をかけるか、かけられるか」は、よく家族で話し合いました。子どもにも、「あなたに準備できる費用はこれだけ」ということもしっかり伝えておくことが大切です。進学する子どもの希望も聞いて、足りない場合は奨学金や教育ローンを利用することも一緒に考えることで、子ども自身も進路について真剣に向き合うきっかけにすることが出来ます。

なお、親世代は子育て後の人生も非常に長いことを忘れずに。「教育資金」が終わっても、その後の

私はよく講演で、生活設計表のプランクシートと、官公庁やマスコミが発表する世の中の家計の平均値の参考例を渡していますが、平均値はあくまで参考で、「家庭に帰って自分自身で作ってもらう」ことが重要です。家庭ごとに異なる事情や状況を把握したうえで、「現状の家計(収支)」と「これからの生活(貯蓄)」を考えなければ、あまり意味がないからです。より現実的にできるだけ具体的に考え、

自分自身の人生に必要な「老後資金」を考えたライフプラン、マネープランも考えておかなければなりません。「定年時に夫婦で3000万円の貯金が必要」とは一般的によくいわれますが、定年後にも教育費が必要な家庭は、さらに念入りなプランが必要となるでしょう。

「自分を主役」にライフプランを立ててみよう

ライフプランを考える際、生活設計表にまとめてみると、ひと目で見えて分かります。家族全員の将来の希望を確認し、「教育資金・住宅資金・老後資金」の必要な時期が、おおよそ「いつ」「いくらぐらいか」を一覧表にするのです。(表)

今回のまとめ

- ★子どもにも、お金のことを伝える
- ★教育費は生まれたときから計画的に準備する
- ★生活設計は「自分を主役」に老後まで考える

生活設計表にあなたの家庭の「未来」を書いてみてください。

こんな話をしている私自身、理想通りにできているかといえば、偉そうなことは言えず、数々の失敗をしてきました。えてして理想と現実の違いは、とはいえ早いうちから、必要となるお金の現実を知っておけば、「心の準備」ができますし、目の前の現実を踏まえたうえで、次の理想を設定して努力をすることも、時間があればあるほどできるはずですよ。「育児と毎日の家計のやりくりでいっぱい」「子育て世代です」「自分を主役とした人生設計」を心のどこかで意識しながら暮らしてほしいと思います。